

1.(7月1日)

本日の新聞論調 (第五百五十三號) 内閣情報部 一五・六・三〇(日) 七・一(月)

内 容 目 次

△有田外相の放送演説

- 一、外相の言明と實行(朝日)
- 一、新東亞の積極的態勢(一日)
- 一、聲明より實行に期待(讀賣)
- 一、外相の放送演説(中外)
- 一、聲明外交に終るな(報知)
- 一、外相演説の検討(國民)
- 一、外相の演説(都)

△物動計畫

- 一、物動計畫の確定(日日)
- 一、物動計畫と經濟再編成(讀賣)
- △蘭印との新關係(朝日)
- △重慶政權内部の和平派(中外)
- △「文化國境」の提唱(報知)
- △産業組合と新政治運動(朝日)
- △輸出振興の好機(日日)
- △新聞と使命(都)

X

X

X

△有田外相の放送演説

一、外相の言明と實行（卅日付朝日）

東亞自主の宣言を以て我が不偏不黨の態度を明白にし、欧米の東亞介入を排撃すべき決意を表明するかは傳へられた所、有田外相の放送講演は言辭簡且つ抽象的にして、我が方針を露骨に、従つて決意を端的に現はすに至つてゐないが、いはんご欲する要點は自ら明白である。特に注目されるのは南洋諸地方を含めた東亞の安定を世界的安定の一分野とし、日本がこの分野を負擔すべきものとして東亞新秩序の範疇確立を言明した點である。有田外相の言明は以前これ等に對してなせる帝國の關心的表示を更に總合的に敷衍したもので、日本が東亞—南洋を含めての安定に如何に關心してゐるか看取し得よう。蘭印及び佛印と我が方の關係が調整されんことし、經濟的相互依存を緊密化しようとしてゐるのは當然である。今回外相によつて重ねて重要關心の表明された事は固より結構であり、聲明もさる事乍ら實行において一分野形成の不動の事實であることを立證せんことを冀望する。

一、新東亞の積極的態勢（卅日付日日）

世界が歴史的な轉換期に直面しつつある時、有田外相の放送演説はこの際日本の立場を一段と力強く闡明したものである。 ↓

國際平和の恒久的基礎を据ふるにはまづ不合理な現状を打破せねばならぬ。國運を賭してこれを斷行したのは日本であり、日本は歐洲に先んじて國際新秩序の建設に着手したのである。有田外相演説は國際新秩序と新東亞建設の關聯性を如實に表明したものとはいはねばならぬ。にも拘らずわが國の意圖を無視し援蔣第三國の存することは遺憾の極みで、これを根絶するため「凡ゆる手段を盡くす決意を有する」のは當然である。援蔣國家群は政策の錯誤を是正すべきである。事變處理の進捗と歐洲戰亂の急轉換は一面「東亞諸國と南洋諸地方と」密接な關係にあるを實證してゐる。當然の歸結としてこれら南洋諸地方をも一括して共存關係に立つ一分野となし安定を計るはわが國に課せられた責任である。新東亞建設は當然にこれら被壓迫民族の解放を包含することを力説したい。

一、聲明より實行に期待（卅日付讀賣）

劃期的な外交轉換の期待を以て迎へた有田外相聲明は、前段に世界平和の哲理を説いた外生彩に乏しく取りたてていふ程の内容を備へてゐない。東亞モノロー主義についても後段僅かに東亞諸國と南洋諸地方とは密接な關係にあり、これ等地域内に相互扶助の一分野を組成するのが東亞を安定せしめる所以との結論を與へたに過ぎぬ。苟くも一事を行はんとするに當つては、先づ聲明において相手方の肺腑を抉り電撃的に實現を期す獨伊外交と、何等の豫告なく先づ實行し一言半句の辯明を試みないソ聯の遺口に比すれば、天地の差が

ある。餘りに遠慮に過ぎることは國民の志氣を挫折するの禍ひなしとしない。聲明には實行の伴ふ所に要諦があり、實現遲々として運ばざるにおいては一顧の價値も認め得ない。この意味において外相聲明の具體的ならざるを咎めんとするものでなく、要はその實行にありざるのである。

二、外相の放送演説（卅日付中外）

有田外相に依つて我國獨自の對外方針としての東亞自主の宣言が發せられると傳へられたのに、之が形式を替へた放送演説となつたことは深く問はぬが、謂ふ所は行ふ所に非るが如き宣言は寧ろ爲さざるに如かず、要は總て實行にある。要するに有田外相の演説たるや微濫的であり、婉曲ではあるが、我國の専念してある東亞新秩序建設に協力するものは之を迎ふるに吝ならず、然らざるものは之を排撃するに躊躇せざるの決意を示したものであり、所謂東亞の自主獨往主義を明示し、又南洋を包含せしめた東亞モンロー主義宣言とも見て然るべきだと思ふので、敢て全幅の贊意を惜まない。

三、聲明外交に終るな（卅日付報知）

大局から見て外交聲明の中止は國家のため慶賀に堪へない。ラヂオ放送もやめればもつこよかつた。機會が過ぎ去つてからそのあさあさと追従してゆく霞ヶ關外交には國民はもはや厭々してゐる。↓

有田外相の外交演説の眼目が東亞協同體の點にあるは明白であり、その他今次大戰の勃發が世界の自然的建設轉制を顧慮することなかつた故として獨伊の復興を言外に肯定してゐる。これ等は外務當局にとつては極めて新規なることに關するであらうが國民にとつては決して新たなる題目ではない。われ等の要求するものは、聲明外交でも机上の外交論でもなく、國民の要望に傾聴しこれを敢行して行く所の確信ある外交の遂行以外にあり得ない。外相演説中特に注意をひいたものは、帝國の支那における武力行使は破邪顯正の活人劍を揮つてゐるに外ならぬ。と喝破した點である。外相はこの支那におけるわが國の正常なる行爲を、將來他の部分においても行使することあるべき決意を示唆したるものであるとすれば、わが外交の一段の飛躍を意味するものといはねばならぬ。單なる言葉の上の飛躍だけであつてはならぬ。

一、外相演説の検討（卅日付國民）

發表された有田外相の演説内容を見るに、格別こり上げるべき問題ではなく政治的後始末らしい輕薄なものを感じる。強ひていへば東亞圈に南洋諸地方を包含せしめよといふ當然の要求を容れてゐることだ。外相が東亞圈の再認識を宣言したことは遲蒔乍ら喜ぶべきことである。然し現段階は觀念上の問題を超越して政策實踐の局面である。従つて外相の東亞圈に對する認識が徹底したものであるならば、對蘭印、佛印政策は根本的に修正され

なければならぬ。かかる實踐の前提としての聲明乃至外交方針の變換であるならばわが世界政策にも大きな轉向がなくてはならぬ。それなくして東亞圏の再認識と之が安定を強調することは一片の空證文といはれても致し方あるまい。之を政策となし而も有効な措置に出ることを國民は期待してゐるのだ。われわれは世界新秩序建設の具體案を要求してゐるのだ。外相の演説はパンを求めらるるものに水を突へるものだ。

一、外相の演説（廿日付都）

有田外相は外交策聲明にかへてラヂオ放送でその決意を闡明した。動もすればわが不介入主義を現状維持、袖手傍觀主義の如く誤解せる向もあるも、不介入とはしかく消極的なるものに非ず、東亞新秩序建設のためには獨白の立場に於て積極的なる行動をさるべきは勿論である。外相が一方に不介入を繰返し、他方東亞自主方針を力説したのはその意味と解せられるが、問題極東亞自主圏と不介入方針とが兩立するか否かにある、目標でなく手段である。

△物動計畫

一、物動計畫の確定（廿日付日日）

昭和十五年度と銘を打つ計畫が三ヶ月を遅延して漸く確定したことは何ともしも釋然とすることが出来ない。われ等は物動を含めた豫算編成の一大改革の必要を認め、特に物動計畫を一定時期に必ず編成すべきを政府に命令する法的根據の制定を要求する。編成が遅延しただけに本年度計畫は内容的には進歩の跡がある。殊に生擴資轉として原始産業の必要物資例へば作業衣、軍手、地下足袋、農機具、肥料等の供給が相當に尊重されたことは大きな進歩といへる。↓

これらは昨年度は全く顧みられなかつたのである。重點主義の強調と生活標準の低下が政府聲明に掲げられたのも進歩の一つである。以上の進歩を認めながら、なほわれ等は物動計畫に信頼を寄せ得ないのを遺憾とする。物動計畫といふ綜合體系は各部門の組織が進歩して始めて高度精密化し得る。いまはその各部門の組織が出来切つてゐない。本年度計畫を實行するためにも、將來の計畫を整備するためにも、政府は計畫數字のみを見凝めることよりも物動を繞る外郭を固めることに努力すべきである。

一、物動計畫と經濟再編成（廿日付讀賣）

本年度物動計畫樹立の困難は支那事變に必要な物資の上に、國際情勢に對處して急速に軍備を充實するための物資需要が付加されたに反して、所要物資の輸入が戦争による價格昂騰と市場の制限のため窮乏になつたことが原因である。この輸入物資の不足を補足するために國內の生産力擴充を促進せんとすれば、このためにも輸入物資を必要とし新たな困難に逢着する。こゝにおいて生産力擴充は軍需の充足と並んで時局下最も重要な政策となり、國際關係が急轉し、東亞經濟ブロック形成の情勢が切迫すれば愈その重要性は増大する。この二つの要求を満たし、更に大陸建設を敢行するためには國民生活水準の低下を圍るべきはいふまでもないが、本年度の物資供給關係を調整するには國民生活切下げだけで追着くものではない。こゝにおいて與へられたる物資努力を如何に有効に利用するかか

問題となる。計畫經濟に基く重點主義の徹底、經濟の再編成は國民生活の水準低下と共に
一 大前進を約束されてゐるといふべきである。

△蘭印との新關係 (卅日付朝日)

蘭領東印度は輸入に於て日本が第一位を占め、輸出についても日本は四、五位を下ゐず、
蘭印當局にとつて對日片貿易狀態の脱却、日本商船の阻止、對蘭本國關係の緊密化等が最
も急務と考へられたもの、如く、結局昭和十二年に石澤ハルト協定が結ばれて今日に至つ
たが、依然此狀態は續けられてゐる。加之蘭印にとつて支那事變と歐洲戰亂が不安となつ
てゐることも想像し得られる。蘭領東印度が斯く經濟上政治上の不安狀態におかれること
れば之と重大關係を有する我國として拱手傍觀すべきではないこと勿論である。政府は議
會に於て我が南方政策の基調を明示し、次いで對蘭印聲明を發したが、要するに日本が蘭
印現狀維持を欲すること共に相互の經濟關係を密着ならしめんとするに外ならぬ。そのため
の折衝が廿八日の經濟的基本交渉成立となつたわけである。今度の交渉は貿易の増進、企
業、入國問題を主眼とする。即ち蘭印の特産物の對日輸出を確保すること共に、企業及び入
國に蘭印の善感を要望したものである。日蘭兩國にとつて好都合の結果を齎すべく、蘭印
の片貿易を預れる上からも無意義ではない。列國が日蘭兩國の眞意を諒解し東亞安定を妨
ぐることをなきを期待する。

△重慶政權内部の和平派 (卅日付中外)

南方援蔣ルートの開鎖は重慶政權に取つて甚大の打撃たるはいふまでもあるまい。米國
に頼らんとするは窮餘の策といはんよりも寧ろ當然であるかも知れぬ。宋子文の渡米又偶
然に非ず、其行動は注目に値する。米國を頼み且つ之を仲介として有利なる和平工作に進
まんとするのではあるまいか。吾等は此點に一抹の疑問を止めざるを得ない。歐洲戰亂の
大變化と其政情の緊迫化は、果然和平派に機頭的機會を與へたるが如く各方面から和平建
議が致されてゐるといふは有り得べき事態であつて、或は一大波紋を描くに至るかも知れ
ぬ。此の如き傾向が表面の問題となれば和平問題は相次で之が實踐運動に轉じて行くもの
と思はれる。此際吾等は新國民政府一段の活動を期待し、同時に我方に於ても全幅の支援
を與へなければならぬ。

△文化國境の提唱 (一日付朝報)

支那事變並に第二次歐洲大戰の進行の結果する世界新秩序開幕の次に來るものは當然新
しき文化の問題でなければならぬ。そこには新秩序體制のもとに強力なる文化統制の
行はるべきは勿論であるが、その前提として今日爲政者に警告したいことは、一日も早く
わが國文化の指導方針を具體的に樹立し、迫る世界新秩序の時代に遅れざらんことを期す
べきである。わが國文化の現狀は一例を學校教育に見るも英國風あり、佛國風あり、米國

風あり、宛然共同租界的文化を形成してゐる。今日わが國文化の指導精神の中にこれらの異端的かつ没落的文化思想を包容することの誤謬は論ずるまでもない。今日わが國の學校教育は一面全く自由主義教育と稱しても大過なく、それがいかに國家に害毒を流しつつあるかを思ふとき實に慄然たらざるを得ない。われらは事毎に歐米文化の攝取を不可とするものではない。たゞそこにわが國情と相照して、選擇の明を要求する。東亞の明日のために文化指導精神の樹立と、文化國境の設定の急務を提唱する。

△産業組合と新政治運動（一日付朝日）

最近産組と政治運動との關係が論議に上り、中には産組が懸けて新黨の傘下に走り浮き上つた政治運動でもするのではないかと危惧する向も尠くないが、かかる意味で、その勢力が動員されるやうなことがあれば斷乎として抑止しなければならぬ。我國の政治體制は一日も速かに強力なる一元的舉國政治體制に組替へられねばならぬが此意味からすれば産組のみに限らず凡ゆる團體が此運動を積極的に支持するのは極めて當然である。茲に留意すべきは、かかる意味での政治的革新は經濟的な體制の一新化による高度化と表裏の關係にあり、又經濟體制の革新は、舊來の政黨政治、官僚獨善政治體制が先づ脱ぎ捨てられねばならぬことである。↓

かくして、産組の場合、新政治體制との繋りは次の二面から把握されねばならぬ。第一は新しい經濟體制の一環として、農業生産經濟を組織替へするための産組自己革新運動である。産組の進むべき道は從來のような流通部に於る都市資本との競り合ひではなく、生産部面へ積極的に乗出して、農業生産力發展を阻害してゐる諸問題をその協同主義によつて解決する方向に求めねばなるまい。それから農業生産經濟をより高度化するための直接の要求、例へば土地制度の改革、土地並水面利用の國家的計畫化等々夫々政治的に持込むべきであるが此の場合從來のような農本主義的な立場からではなしに、一段と高められた全國的な立場からの要求として持込まれねばなるまい。ここに産組と新政治體制運動との第二の繋りがある。産組が舊來の偏向を棄て、かかる姿勢に正されることが即ち新政治體制運動に参畫する眞の姿であると思ふ。所謂新黨と運動と産組の關係を白眼視する人々の認識も亦こゝ迄深められる必要があるのではなからうか。

△輸出振興の好機（一日付日日）

いま目を轉じて急轉回しつつある國際情勢を具さに考察すると、輸出振興に拍車すべき部面が展開しつつあるを認めざるを得ない。蘭印當局が對日輸出入關係につきわが希望を容れつつあるが如きその一小例をみてよい。ただに蘭印だけでなく東亞から南洋にかけて、從來英佛蘭白の植民地として搾取の對象としてのみ存在した廣大な地域水域は、今後わが

貿易發展の新市場でなければならぬ。米國をして東亞及び南方の新事態を認識せしめること、通商條約の廢棄の自大夜郎の態度を反省せしめることも必要であるが、同時に貿易關係について從來の得手勝手なやり方を中止せしめることも必要である。今日こそわが商權を廣大な新地域に確立すべき時機である。そのためにはまづ國內經濟體制を強靱にする必要がある。昨今商工當局によつて輸出品原料會社、輸出會社の一元化が提唱されてゐる。これ等も緊急の問題であるが、更に貿易關係について實歷者の思ひ切つた登用と經濟外交の積極的進出を要望する。

△新聞の使命 (卅日付都)

參謀總長官殿下の御嘉賞を拜して吾等の痛感することは、世上の一部に新聞の思想戰、宣傳戰に於ける重大使命を忘れて新聞を無用視し或は輕視するの風潮あることである。言論界が萎靡沈滞すれば國民精神も萎靡沈滞することは瞭かである。言論界がその重大使命に鑑み積極的に國策に協力すると共に、政府も國民も新聞を輕視せず、之を援助し充分その機能を發揮せしめんことを切望する。

△其他 (略) 「私立學校の改善問題」 (一日付日日) 「日蘭印交渉、禁絶は當然」 (卅日付都)

外國宣傳情報第一號

內閣情報部七・一

上海UP新聞電報放送 (三十六日)
香港報

(朝鮮總督府遞信局聽取)

當局では何ら心配の必要なしと繰返し強調してゐるが、今朝香港市民は「全く防禦的性質なる或る種の警戒策をとつた」と發表された。官邊では日本軍の接近により香港が不當な緊張を味ふことは殆んど有り得ないことだと考へてゐる。前記の警戒策には適宜市民により編成されてゐる義勇軍の動員が含まれてゐない。官邊では又香港より支那へ軍需品が渡つてゐるといふ日本側の主張を否定し、ただ廣東省への重要なるルートを経て内陸へ普通の供給が爲されてゐるに過ぎぬと述べた。國境よりの報道によつて日本軍は終日、深圳河の堤防決潰が突然に起り、深圳の村に侵水して南頭、深圳間の公路を水浸しにしてゐる。洪水と戦つてゐるといはれる。同盟通信は日本軍が深圳の東北方二十二軒の平山墟に入つたと述べ、「國境の三分の二は既に遮斷され、新設の補給路は日本軍が大鵬灣へ抜けた際完全に遮斷されるであらう」と附言してゐる。